

# お お ぞ ら

No.8 (125)

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
総合病院 聖隷三方原病院  
聖隷おおぞら療育センター

〒431-1304  
浜松市北区細江町中川 7448  
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功  
編集者 横地健治

2008年3月20日

## NICU 長期入院児の問題

所長 横地 健治

昨年から新生児集中治療病棟(NICU)に長期入院している重症心身障害児が問題となっています。出生前から、出産時に、あるいは新生児期に重度脳障害を負い、あわせて呼吸や循環の異常を持つ子があります。この中には、人工呼吸などの高度医療処置が常時必要となり、このため家庭介護に移行できず、何ヶ月も、さらに何年もNICUに入院を継続せざるをえない子があります。この数がかなり多数であることが最近の調査で示されました。新生児呼吸管理可能病床数の六・六%が、一年以上の長期入院児で占められているというものです。この分、地域のNICU病床数が削減されたと同じことになりました。このことは、NICU管理を要する病的新生児を出産するかもしれない妊婦の分娩受け入れ拒否にもつながっています。新生児医療だけではなく、産科医療まで広がる大問題となっています。ただし、実際は、NICU入院が長くなると、小児病棟に転棟

していることも多いはずですが。そして、小児病棟には、これとは別に、乳幼児期・学齢期発症の重症心身障害児が長期入院しています。こうした小児病棟の長期入院の全国的な実態は明らかではありませんが、NICUと同等かそれ以上に問題ではないかと私は思っています。浜松地区の小児病棟はまさしくそのような状況になっています。

こうした状況に対し、行政は危機感を持って、その解消を意図しています。そして、その受け皿として重症心身障害児(者)施設に期待しています。それが、平成二〇年度の診療報酬改定に明確に示されています。現状の重症心身障害児(者)施設の収入の約3%が医療費に拠っています。よって、重症心身障害児(者)施設に適用される診療報酬改定がどうなるかによって、施設運営は大きな影響を受けます(実際、二年前の改定で、当時の「おおぞら療育センター」は壊滅的な大減収となり、「聖隷おおぞら療育センター」に転換する契機となりました)。

平成二〇年度は、高度医療を要する人(者)の診療報酬を手厚くすることが示されました。高い看護師配置(七対一)の高額入院料は重症心身障害児(者)施設には認められませんでしたが、これからは認められるようになりました。医療的重症者の診療には医師・看護師が長い時間を費やし、多くの医療機器や医療消耗品(吸引チューブなど)を要します。こうした経費を、高い看護師配置で代表させて基本的入院料に反映させるのが今のルールです。よって、七対一の最高の看護師配置入院料を重症心身障害児(者)施設にも認めたということは、必要なお金は出さずから医療度の高い人をもっと受け入れてくれという行政の強いメッセージということになります。また、濃厚な医療的ケアを要する患者に対する加算(超重症児(者)加算)についても、乳幼児については増額されました。これは前述のNICU長期入院児の重症心身障害児(者)施設受け入れをかなり意識したものだと思われま

症心身障害児(者)に高度慢性期医療を行いながら、良い生活を提供していくのが、私たちの使命です。NICUや急性期病棟の小児病棟で長期入院していれば、そこがその子たちの生活の場となっています。そこでの生活が、私たちの考える良い生活となっているとはどうい思えませんか。長期入院している本人にとっても現状は不幸だと思います。よって、長期入院児の受け入れは、私たちの使命に沿っています。

だからといって、すぐ受け入れますとは言えません。まず、現在の入所規模では空きがないので、増床による入所枠の拡大がされなければなりません。増床による地域の福祉予算上の負担増を懸念する人がいるかもしれません。しかし、現在NICUや地域基幹病院の小児科入院で費やす医療費に比べれば、重症心身障害児(者)施設入所での費やす医療費と福祉経費(給付費)の合計の方が低額です。平成二〇年度の改定では、小児に手厚い入院医療を売りにして、小児科医師数の多い基幹病院の小児入院医療管理料は大幅にアップしています。そうすると、人工呼吸器使用の幼児を例にとれば、重症心

## お知らせ

4月1日より、聖隷三方原病院のホームページ  
(<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/>) から  
聖隷おおぞら療育センターのショートステイ  
ご予約受け入れ状況をご確認いただけます。  
どうぞご覧ください。

身障害児(者)施設での医療費と給付費の合計より、日額で約一万六千円高い医療費(約一・四倍)が病院入院児には掛かっていることになりました。重症心身障害児(者)施設に変われば、より低額で、より良い生活を提供できると思います。こうした面からも増床には理があると思います。すぐ受け入れられない理由のうちひとつは看護師不足です。このため、医療的ケアを要するショートステイ枠は現状でも減ったままです。この問題に関しては、地道な努力により、ひとりずつ看護師を増やしていくしかないと思っています。

## だいち活動報告会

安面 沙織

昨年一二月二三日、活動報告会が各ゾーンで行われました。だいちグループでの活動報告会について内容を紹介します。

各ケース担当がそれぞれ利用者の生活、活動などに対して年間を通じて取り組んでいることや、現在月間目標として注目していることを発表するという形で進めました。そして、日頃の利用者の生活の様子などを写真に収めたものをアルバムにまとめ、発表後はアルバムを見ながら、ご父兄の質問や意見に答える時間、また、活動の道具を用意して、できる範囲で利用者がご父兄の隣で実施できる時間も設けました。

活動報告会で紹介したご父兄での活動は利用者個々に行っていて、提供する内容に枠はありません。利用者それぞれの個性、動き、できること、また興味あることなどに合わせた内容を考え、提供しています。ある利用者は竹串にビーズを通すという内容を行っています。そうした時の表情は

真剣で、手元の一点に集中しているようです。笑顔だけでなく、そのようなちょっとした時間を大切にしているという内容を報告しました。

また、活動を提供する中で様々な発見があり、ここ数年で変化がみられた利用者もいます。体に触れられることが苦手で散歩中は職員の後ろを歩いていた利用者が最近職員と並んで歩いたり、腕を組んだりもしています。職員との物を介したやりとりもあります。だいちリビングのソファで職員の隣に座っている様子を収め、それを報告しました。

写真やビデオなどの映像に残すということは私たち職員にも様々な「気づき」があります。映像を撮ることで「この瞬間、こんな表情をしているんだ」、「ここをこんなにも見てたんだ」など、改めて発見することもあります。

笑顔だけでなく、普段はあまり見せない真剣な表情、散歩中に風に少し身体を丸めている姿、職員と見つめ合っている様子など、生活にはさまざまな場面があります。そうしたひとつひとつを大切にしていることをご父兄に伝え、利用者の生活に対しての取り組みを理解してもらえよう

今後も内容を検討していきたいと思います。  
(だいち生活支援員)

## こだま活動報告会

良知 優子

昨年一二月二三日、クリスマス礼拝の日の午後に活動報告会が行われました。昨年の七月からこだままで勤務させていただくことになった私にとっては、初めて企画から参加する行事であり、大変緊張して当日を迎えたことを覚えていきます。

聖隷おおぞら療育センターでは、利用者のみなさんが日々どのような生活を送っているのかをご家族に知ってもらうことを目的として活動報告会を行っており、今回で二回目となります。

私はこだまで働きはじめた時、利用者ひとりひとりの個性や障害像に合わせて、姿勢のとり方から入浴方法、注入、吸引手技に至るまで本当に細かく日常生活援助が考えられ、確実に行われていることが本当にすごいなと思います、それと同時にこの職員のみなさんが大切にできたことが私にも出来るようになるだろうか、

頑張らなくてはと感じました。また日常生活援助が大切にされ、確実に行われているからこそ、利用者のみなさんが訪問学級で先生と一緒にいるという体験をしたり、職員と散歩の時間を楽しんだりすることが出来るのだと感じました。

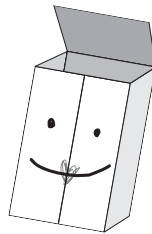
こだまの活動報告会では、訪問学級、散歩などの活動の場面、訓練部による訓練の場面での利用者の表情や、頑張っている姿を伝えたいと考え、ビデオ撮影したものをご家族に見ていただきました。また、利用者のみなさんが安全で快適に日常生活が送れるように職員が工夫して行っているグループ活動について少し紹介させていただきます。

当日参加してみても、活動報告会は、普段なかなかゆっくり話すことが難しいご家族同士や、ご家族と職員のコミュニケーションの場としても、大切な時間となっているんだと感じました。

今回はわからないことが多い、自分から積極的に何かをすることは出来ませんでした。次回は今回の経験と、職員で話し合った反省点をふまえて、よりよい活動報告会が出来るように頑張りたいと思います。(あすか看護師)

# の宝箱

## 私



### 「部屋」

中田 亮

三年程前、僕は部屋の掃除に凝っていた。特に深夜明けの天気の良い日は決まって布団を干して洗濯機を回して掃除機をかける…これが妙に楽しかった。しかし、最近の僕の部屋は荒れ放題である。掃除をしてもどうもきれいになった気がしないし、段々やる気もおきなくなってきた。なぜだろうと考えてみたら、答えは簡単、物が多いから、である。僕は物を捨てられない人間だ。昔からそうで、取り敢えず何でもとっておく。買い物時の紙袋から旅行先でもらって来たパンフレットにプレゼントの包み紙など。学生時代にはレシートもとっておいた。家計簿をつける訳でもなくただ引き出しに山と成り込んでいた。読み終わった雑誌、もう着ない服、聞かないCD、見ないビデオ、食べる当てのないもろい物の飴、使えない冷凍食品…ただ何となくとっておいてしまう。もちろん捨てる事だつてあるし、片付けようと思気込んだ事もあった。しかし、最終的には、取り敢えずとっておこう、になるのだ。本の類などは片付けようと思っ張り出しては、つい読んでしまい、散らかすだけ散らかしてはどうにもならなくなり…元に戻すのである。

なぜ物を捨てられないのか？小さい頃から親に「物を大切にしないさい」と言われて来たから、というのもあるが、買うのに苦労するから、というのもあると思う。もの凄く迷うのだ。友人とコートを買に行った時の話だが、お店を何軒も、何回も行った来たりしてコート一枚買うのに丸一日かかった。最初は一緒に選んでくれていた友人も途中飽きてしまい、最後には迷う僕をからかうのが楽しくなったらしく「それでいいの？あっちの方が…」などと言出し僕を惑わせたのだ。思い返してみるとこんなエピソードはたくさんある。小さい頃はもっとひどく、父とおもちゃ屋に行き誕生日のプレゼントを選んだがいつまでも決まらず、決断力についての説教を長々とされたことは仲々忘れられない。

僕の部屋の物にはそんな記憶や思い出が詰まっている。引っ張り出した本を読んでいる時も、本の内容よりこれを買った時の自分の状況を思い出している。何を、何を、何を、誰と一緒にだったのか、等々。なんてことない物にも自分の記憶や経験が宿っているような気がするのだ。僕はそれを出来るだけたくさん覚えていたいと思う。けれど、日々生活していく中でどうしても忘れてしまう。だからたくさん「物」が必要なのだ。たくさん「物」ばかりだが、その「物」に付いている思い出の一つ一つが僕にとっての宝物かもしれないと思う。

なんてきれいにまとめてみたが結局部屋は散らかったまま。さてどうしようか…。

(ずばる生活支援員)

## スウィートポテト

とっても簡単！



### 作り方

- ① さつま芋は皮をむき、適当な大きさに切り、やわらかくなるまで蒸します。
- ② さつま芋が熱いうちにマッシャー又はフォークでつぶします。(裏ごしをするとなめらかになります)
- ③ 砂糖・牛乳・バター・バニラエッセンスを入れてよく混ぜ合わせます。
- ④ 四等分してアルミカップに入れ、上から卵黄を塗ります。
- ⑤ オープン又はオーブントースターで焼き目がつくまで焼きます。
- ⑥ 好みでホイップクリームを飾ってください。



材料 4人分 一人分 130kcal

- ◆ さつま芋 …… 240 g
- ◆ 砂糖 …… 16 g
- ◆ 牛乳 …… 40 cc
- ◆ バター …… 4 g
- ◆ バニラエッセンス …… 適量
- ◆ 卵黄 …… 適量
- ◆ ホイップクリーム (飾り用) …… 好みで
- ◇ 蒸し器
- ◇ マッシャー or フォーク
- ◇ アルミカップ
- ◇ オープン (オーブントースター)
- ◇ 木べら

# あゆみ

## (入所)

- 1.1 だいち、初詣に行ってきました。今年もよろしく!
- 1.3 すばる2名、初詣に行ってきました。今年はどうなるでしょうか。
- 1.8 はるか3名中華料理のお店「四川楼」へお昼ご飯を食べに出掛けました。  
麺類や麻婆豆腐を食べました。
- 1.14 だいち、おやつ作りをしました。午前中に作ったババロアを、午後みんなで食べました。
- 1.23 だいち2名、フードコートへおいしいものを食べに行ってきました。ラーメンやパフェの味を楽しんできました。  
あすかにて、職員による楽器演奏(リコーダー、オカリナ)をおこないました。利用者の居室に出張する形で行い、誕生日の近い方には誕生日の曲を披露しました。
- 2.11 だいち、おやつ作りをしました。午前中に材料を買出しに行き、午後に皆でチョコバナナを作って食べました。
- 2.6 うらら3名、フルーツパーク内にあるいちご狩りに行きました。旬の真っ赤ないちごを満喫しました。
- 2.10 うらら1名、2月生まれの利用者と共に外出しました。昼食は知久屋のうなぎ弁当を食べました。そして志都呂イオンへ買い物に出掛けました。
- 2.24 すばるにて職員による楽器演奏

(リコーダー)を行いました。練習の成果でしょうか、皆がよく耳を傾けてくれているのがわかりました。

20.29 あすかにて、職員によるキーボード演奏。利用者の誕生日を祝って生演奏をプレゼントしました。

## ～北棟の日曜日～

- ・お正月は三方原神社に初詣に行きました。また書き初めもしました。できあがったものはしばらく飾っておきました。(はるか)
- ・1月13日 「新成人を祝う会」今年成人を迎えた2名の利用者と共にみんなでお祝いをしました。(はるか)
- ・2月3日 「節分」鬼の面、新聞紙で作った豆を鬼にぶつけ退治しました。悪い鬼を追い出し、福の神が来たでしょうか?(うらら・はるか)
- ・1、2月 お正月飾りや節分の鬼をリビングに飾りました。(こだま)
- ・ひなまつりに向けてひな壇やひな人形を飾りました。他のゾーンの利用者も見えています。(はるか)

## (通所部門)

## もみの木

- 1月 成人を祝う。もみの木で一人の方が成人を迎えました。  
正装に身をつつみ、輝きに満ちた表情で皆の拍手を受けました。  
恒例のクス球割。記念にアルバムを贈りました。
- 2月 いろいろな餅つき  
小さな杵と臼は今年も大活躍。各グループで身近に餅つきを楽しみました。

餅米を蒸す香りや餅の柔らかな感触を体験。地域のボランティアの方や保護者の参加もあり、院内保育園さくらの園児さんも一緒に楽しみました。いろいろな方と交流できたことも感謝です。

## ひかりの子

- 2.5 母子保育で、パン粘土を作りました。ふわふわのパンの感触や、水を加えて粘土にした時のもちっとした感触など、それぞれの工程で違った感触を楽しむことができました。

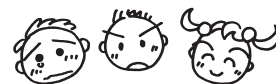
## (全体)

- 1.5 帰園日
- 1.15 浜松市による監査指導
- 2.6 あさひ実地指導
- 2.7 三大会議
- 2.23 聖隷福祉学会
- 2.24 家族の会

苦情解決委員会より

平成19年10月～12月

苦情はありませんでした。



|         | 1月            | 2月            |
|---------|---------------|---------------|
| ショートステイ | 41人<br>(168日) | 43人<br>(187日) |
| レスパイト   | 18人<br>(49日)  | 22人<br>(49日)  |
| ボランティア  | 22人<br>(9件)   | 38人<br>(8件)   |
| 見学実習    | 3人<br>(1件)    | 16人<br>(2件)   |

寒い冬が終わり、季節は春になりつつあります。最近地球温暖化とよく耳にしますが、やはり冬は寒いものですが、ふると体に力が入り、布団から出るのも嫌になります。しかし、この寒さがあるから春が心地よく感じられる、紅葉もきれいに色づく、四季のある日本に生まれてよかったと思いませんか。

ところで春といえば「お花見」。聖隷おおぞら療育センターの周辺にも桜の木が多くあり、センター内からも川沿いの桜は見る事ができます。この季節になると、5年前に利用者と共に公園でお花見したことを思い出します。昼食のお弁当を持ってみんなで出掛け、芝生のある広場にシートを敷き過ぎました。利用者が桜をじっくりと見ることはなかったけれど、天気はよく暖かな気候の中で、利用者と共にお弁当を食べ、その後芝生の上で転がったり、横になったりして楽しく過ごした時は、今でも忘れられない思い出です。

## 編集後記